

科目名	Webプログラミング演習ⅢB						
科目名(英)							
単位数	12単位		時間数	180時間	担当者	久家 政人	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	情報システム専攻科システムエンジニア専攻3年・情報工学科高度ITシステム専攻3年・ 情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース2年						
授業概要	前期で学んだSpringフレームワークを利用したWebアプリケーションの基礎知識を基に、実践的なプログラム作成を学ぶ。 総合演習として本格的なWebアプリケーションを作成する。						
	iCDタスクコード	DV08.1.1,DV08.1.2,DV08.1.3,DV08.1.4,DV08.1.5,DV08.2.1,DV08.2.2,DV08.2.3,DV08.2.4					
授業形態	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○		○		SpringMVCを利用したWebアプリケーションを構築することができる。	
		○		○		データベースと連携したWebアプリケーションを構築することができる。	
テキスト・教材 参考図書	Spring Framework超入門 やさしくわかるWebアプリ開発(技術評論社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-6	前期の復習課題(1)				教科書の該当範囲を読み、わからない用語は調べておくこと	
	7-12	Validation 単項目チェック、メッセージ管理、関連項目チェック					
	13-18	セッション					
	19-24	サービス(1) Select、Insert					
	24-30	サービス(2) Update、Delete					
	31-36	総合演習A、確認テスト				サービス(1)～(3)の復習をしておく、授業内容に関わるテストを実施するので、事前に整理をしておくこと	
	37-42	テキスト9章○×クイズアプリ(1)					
	43-48	テキスト9章○×クイズアプリ(2)					
	49-54	複合テーブル操作					
	55-60	複数のコントローラ処理					
	61-66	Spring Security					
	67-72	画像処理、確認テスト					
	73-78	総合演習B					
	79-84	総合演習B					
	85-90	総合演習B					
評価方法	(1)課題を数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)受講状況を評価する。(4)確認テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート		◎		◎		50%
	定期試験(筆記)	◎	◎				30%
	受講状況				◎		10%
	確認テスト	○	○		○		10%
履修上の注意	PCを利用する。						

科目名	システム開発演習ⅡB										
科目名(英)											
単位数	10単位		時間数		150時間		担当者		久家 政人		
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	情報システム専攻科システムエンジニア専攻3年・情報工学科高度ITシステム専攻3年・ 情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース2年										
授業概要	前期に引き続きチームによるアプリケーション開発作業を通じて、企画、設計書作成(画面設計書とデータベース設計書等)から構築までの一貫したプロセスを演習する。コンテスト用の資料準備を行う。										
	iCDタスクコード		DV05.1.1,DV05.1.2,DV05.1.3,DV05.1.4,DV05.2.1,DV05.2.2,DV05.2.5,DV05.5.1,DV05.6.1,DV05.6.4								
授業形態	講義: △		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
		○		○		チームによる開発作業において、スケジュール、問題管理を行える。					
		○				開発作業の生産物をソース管理ソフトウェアを使用して管理できる。					
		○				納品準備・納品をすることができる。					
テキスト・教材 参考図書	なし										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	オリエンテーション									
	2~5	開発環境構築、HTML/CSS/JavaScript復習					授業時間内に終わらなかった分は各自終わらせておくこと				
	6~9	企画検討(個人)									
	10	個人企画プレゼン					企画を考えておくこと				
	11~14	企画検討(プロトタイプ作成、設計書作成)									
	15	企画レビュー					レビューまでに、資料を作成しておくこと				
	16~24	イテレーション1									
	25	イテレーション1動作確認会					動作確認の準備をしておくこと				
	26~39	イテレーション2									
	40	イテレーション2動作確認会					動作確認の準備をしておくこと				
	41~54	イテレーション3									
	56~69	イテレーション3動作確認会					動作確認の準備をしておくこと				
	70~71	最終成果物発表会					発表会の準備をしておくこと				
	72~75	成果物提出、納品準備					納品資料を全て作成しておくこと				
	評価方法	(1)成果物提出(チーム、個人)を数回実施する。(2)レビューを数回実施する。やむをえない事情を除く不参加の場合は大幅に減点する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他 評価割合	
成果物提出状況(チーム)				◎				○ 30%			
成果物提出状況(個人)				◎				◎ 30%			
レビュー								◎ 20%			
受講状況								◎ 20%			
履修上の注意	再試験は実施しない。PCを利用する。										

科目名	一般教養ⅢB						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	木村 浩昌	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	情報工学科 3年・情報システム専攻科 3年 情報システム科アドバンスコース2年、情報システム専攻科アドバンスコース2年						
授業概要	就職筆記試験に関して以下の対策を行う。 ①「SPIテスト」前期から継続し、数学分野(未実施分)を含め、解説&練習問題を行う ②「CAB・GABテスト」テキストに沿って、解説&練習問題を行う ③ 漢字ミニテスト 麻生塾の「ミニテスト」を利用し、漢字の練習 ⇒ 確認テスト を行う						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語(数学)分野・非言語(国語)分野の問題に対して、解答を説明できること。	
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(成美堂出版) 最新最強のCAB・GAB超速解法(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	CAB・GAB対策(その1)					
	2	CAB・GAB対策(その2)、漢字対策(その1)					
	3	CAB・GAB対策(その3)、漢字対策(その2)					
	4	CAB・GAB対策(その4)、漢字対策(その3)					
	5	中間テスト(CAB・GAB一連テスト)、漢字対策(その4)				中間テストの範囲を復習しておくこと	
	6	CAB・GAB対策(その5)、漢字対策(その5)					
	7	SPI数学分野の対策(その1)、漢字対策(その6)					
	8	SPI数学分野の対策(その2)、漢字対策(その7)					
	9	SPI数学分野の対策(その3)、漢字対策(その8)					
	10	SPI数学分野の対策(その4)、漢字対策(その9)					
	11	SPI数学分野の対策(その5)、漢字対策(その10)					
	12	SPI数学分野の対策(その6)、漢字対策(その11)					
	13	SPI数学分野の対策(その7) 及び SPI数学分野の小テスト				小テストの範囲を復習しておくこと	
	14	SPI性格検査、CAB・GAB性格検査OPQ SPI数学分野の小テスト				小テストの範囲を復習しておくこと	
	15	SPI数学分野の小テスト 及び SPI国語分野の復習、定期試験対策					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				55%
	小テスト	◎	◎				25%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	ビジネスマナー						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	徳島 欽子	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	情報工学科 4年・情報システム専攻科 3年・情報システム科 2年 情報システム科アドバンスコース2年、情報システム専攻科アドバンスコース3年						
授業概要	ビジネスシーンに必要な名刺交換、電話応対などの基本的なマナーだけではなく、冠婚葬祭や食事の仕方などのその場に応じたマナーを学ぶ。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		社会人として相応しいビジネスマナーを理解することができる。	
		○		○		社会人として必要な電話応対ができる。	
		○		○		冠婚葬祭のマナー、日常生活でのマナーを理解し実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	入社1年目ビジネスマナーの教科書(プレジデント社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	訪問のマナー ～好印象を与える自己紹介の仕方(1)				自己紹介ができるよう準備をすること	
	2	～好印象を与える自己紹介の仕方(2)					
	3	基本マナー ～テーブルマナー					
	4	基本マナー ～言葉使い(1)					
	5	基本マナー ～言葉使い(2)					
	6	電話応対 ～報連相 ・電話応対の基本・電話の受け方の流れ ・かけ方の流れ					
	7	～電話の受け方演習、取次ぎ方演習				電話応対の流れを確認しておくこと	
	8	～電話のかけ方の流れ・かけ方演習					
	9	～電話応対テスト(1)					
	10	～電話応対テスト(2)					
	11	ビジネス文書のマナー				ビジネス文書を確認しておくこと	
	12	冠婚葬祭 ～冠婚葬祭のマナー					
	13	基本マナー ～名刺交換のマナー(1)					
	14	基本マナー ～名刺交換のマナー(2)					
	15	～組織と人間関係 ・総復習				全体の復習をしておくこと□	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業中に確認テスト(実技試験含む)を実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎		○		55%
	確認テスト	○	○		◎		25%
	受講状況				○		20%
履修上の注意							

科目名	モバイルプログラミング演習応用						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	久家 政人
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム専攻科システムエンジニア専攻3年・情報工学科高度ITシステム専攻3年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース2年						
授業概要	Androidプラットフォームのアーキテクチャを理解し、開発、端末での動作確認まで一連の流れを習得する。サンプルプログラムの作成、演習課題の作成を通し、Androidアプリケーション開発に必要な知識を身に付け、作品開発とプレゼンテーションが出来るようになる。						
	iCDタスクコード		DV05.3.1,DV05.3.2,DV05.7.3				
授業形態	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				Androidの概要、Androidアプリケーションフレームワークの利用方法が理解できる。	
		○		○		AndroidSDKマニュアルを読んで、自力でアプリケーションの開発ができる。	
				○		作品のプレゼンテーションができる。	
テキスト・教材 参考図書	はじめてのAndroidプログラミング第5版(SB Creative)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-3	前期振り返り、Chapter9カウントダウンタイマーを作ろう					
	4-5	Chapter9の続き					
	6-7	Chapter10 カメラアプリを作ろう					
	8-9	Chapter10の続き					
	10-11	確認テスト、Chapter11 スケジューラーアプリを作ろう				確認テストに向けて勉強する事	
	12-13	Chapter11の続き					
	14-15	Chapter12 アニメーションするツーリスト情報アプリを作ろう					
	16-17	Chapter12の続き、確認テスト				確認テストに向けて勉強する事	
	18-19	GoogleMapAPIを使ったアプリ開発					
	20-21	Monacaを利用したアプリ開発					
	22-23	ニフクラ連携アプリ開発					
	24-25	総合演習(アプリ企画立案)					
	26-27	総合演習(開発)					
	28-29	総合演習(開発)					
	30	発表					
評価方法	(1)課題またはレポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)確認テストを数回実施する。(4)受講状況を評価する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート		◎		◎		50%
	定期試験(筆記)	◎	◎				30%
	確認テスト	○	○		○		10%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意	PCを利用する。						

科目名	情報処理試験対策秋対策B						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	20時間		担当者	川野 啓祐
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報工学科3年・情報システム専攻科3年・ 情報システム科アドバンスコース2年・情報システム専攻科アドバンスコース2年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1～5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				分からなかった部分の復習をしておくこと。	
	6～10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				分からなかった部分の復習をしておくこと。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 (2)課題・レポートを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				55%
	課題・レポート	○	◎				25%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない						

科目名	情報処理試験対策春対策B						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	24時間	担当者	川野 啓祐	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	情報システム専攻科3年・情報工学科3,4年 情報システム科アドバンスコース2年・情報システム専攻科アドバンスコース2,3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1～6	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				分からなかった部分の復習をしておくこと。	
	7～12	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				分からなかった部分の復習をしておくこと。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				55%
	課題・レポート	○	◎				25%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							